

教科等研究会（小学校音楽部会）

令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「音楽のよさを感じ取り、生き生きと表現できる子どもの育成」

（仮説）音楽を形づくっている要素に気づき、それらが生み出すよさや面白さなどを感じ取る活動を位置づければ、自分の思いや願いをもって、生き生きと表現できる子どもが育つであろう。

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日 6/9	人数 17名	場所 甲佐小	期日 8/3	場所 益城中央小	研修会 (箏の実技研修会)	期日 10/3	場所 嘉島西小	授業者 中ノ森啓太先生	期日 1/26	場所 飯野小	授業者 今村仁美先生

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 本部会の研究テーマの考察

学習指導要領には、音楽科における「主体的・対話的で深い学び」を実現する際の留意事項として、「他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見出したりするなど」と記されている。これは、改訂の基本的な考え方の一つであり、これまでも大切にされてきたことである。さらに、その文言に続く「思考、判断し、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図ること」は、現行学習指導要領のポイントである。主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点から授業改善を図ることで、これまで大切に積み重ねられてきた学習や指導方法を継承し、さらに質的に充実させることが重要であると考え。そこで本年も研究の軸を大きく変えずに取り組むことにした。

「音楽のよさを感じ取る」とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形作っている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化と関連付けることである。学習指導要領の中でも、これらを「音楽的な見方・考え方」を働かせることと位置づけ、この見方・考え方を通して、音楽科の資質・能力を育成するものと明記されている。

「思いや願いをもって表現する」とは、思いや意図をもち、それを実現するために必要となる知識や技能を習得して、歌ったり演奏したりするということである。また、主体的に他者と協働する中で自分の考えをより深めたり再構築したりしながら豊かに表現することは、「生き生きと表現する」姿であると考え。音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みをもとにすることにより、音楽のよさや美しさを感じ取り、音楽への思いや願いをもって豊かに表現できる子どもの育成を目指した。

② 研究の実際

ア 夏季研修会

「箏の基本的な奏法について」

講師：蓑田 由美子 先生

生田流宮城社大師範の蓑田由美子先生を講師にお招きして、箏の実技研修会を実施した。前半は、楽器や付属品、調弦の仕方、楽譜の読み方等について演奏を交えながら講義をしていただき、後半は実際に箏に触れて音を出し、練習をする実技研修の形をとった。一人一台楽器を準備し、平調子の「さくら」、乃木調子の「かごめかごめ」を練習した後、最後に全員で合奏をした。箏を弾くのは初めてという参加者も多かったが、楽譜も初心者から経験者まで、それぞれのレベルに合わせて選んで演奏できるように工夫されており、楽しく学ぶことができた。

イ 研究授業① 第4学年「せんりつのとくちょうを感じ取ろう 『ゆかいに歩けば』」

指導者 嘉島町立嘉島西小学校 中ノ森 啓太 先生

スタカートやレガートなどの旋律の特徴に気づき、それらに合った表現の仕方を工夫することをねらいとした学習であった。児童は「ゆかいに」歌うために、肩を上下させたり、体全体を上下に動かしたり、手拍子をしたりと様々な工夫をしながら楽しそうに歌うことができていた。音楽を形づくる要素をもとに、グループで思いや意図を共有しながら表現する姿があった。

ウ 研究授業② 第3学年「ちいきにつたわる音楽でつながろう 『祇園囃子／ねぶた囃子』」

指導者 益城町立飯野小学校 今村 仁美 先生

当初授業を予定していた学級が学級閉鎖となったため、他の学級での授業の動画視聴による授業研究会を行った。内容は、2つの祭囃子を比べて聞き、日本の楽器の音色やリズムに気づき、お囃子の特徴をつかむことをねらった学習であった。児童は、それぞれの楽器の音の高さや大きさ、リズムの違いに気づき、お囃子全体の曲想の違いをつかむことができていた。

(2) 成果と課題

(成果)

- 実技研で合奏をして楽しさを味わうことが出来た。子ども達にもその喜びを伝えたいという思いを強く持った。
- 授業研究会を行うにあたり、地区別に事前研をもち学習構想案を検討した上で授業に臨むことができた。
- それぞれの授業の中で、音を楽しむ子供の姿が見られた。

(課題)

- 2回の授業研究会のうち、1回は動画視聴となってしまった。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第3学年「ちいきにつたわる音楽でつながろう 『祇園囃子／ねぶた囃子』」

指導者 益城町立飯野小学校 今村 仁美 先生

(授業研究会より)

- 地域の祭り（砥川神社の獅子舞）に触れてあったのがよかった。
- 比較鑑賞をしたので、どちらが好きかを問うてみてはどうだったか。
- めあてに対するまとめがしっかりなされていた。
- 学習のゴールとして「どんな祭りにしたいか」を考えさせておくと、自分達でお囃子をつくって演奏するときには生かせると思われる。
- 映像は見せない方が、音に意識が向きやすいので、音にフォーカスさせたいのであれば、CDを使う方がよい。

(2) 学習構想案（抜粋）

1 題材構想

題材の目標	(1)日本の楽器の音色やリズムなどと曲想との関わりに気づき、即興的に音を選んで旋律をつくる技能を身につける。 (2)日本の楽器の音色やリズムなどの特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら祭り囃子を聴いたり、旋律の音の動きや始め・終わりの音に着目した旋律のつくり方について思いや意図をもったりする。 (3)祭り囃子を聴いたり、友だちと協働して旋律をつくったりする学習を通して、郷土に伝わる音楽や楽器の音への興味・関心を高める。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	①日本の楽器の音色や響きの特徴、リズムと曲想との関わりに気付いている。 ②日本の楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりに	①音色やリズム、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考	①お囃子で使われる楽器の音色やリズムの特徴などと曲想との関わりに興味・関心を持ち、郷土に伝わる音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取っ

	<p>ついて気付いている。</p> <p>③音のつなげ方の特徴に気付く、三つの音とリズムを使って、即興的に音を選んで表現する技能を身に付けてつくっている。</p>	<p>え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>②旋律や拍、フレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、音やフレーズのつなげ方を工夫し、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>て聴く活動に進んで取り組んでいる。</p> <p>②締太鼓や長胴太鼓の音色やリズムに興味・関心をもち、ばちの持ち方や打ち方を学んで演奏する学習に進んで取り組んでいる。</p> <p>③お囃子の旋律に興味・関心をもち、ラ、ド、レの三つの音を使って旋律をつくる学習に進んで取り組もうとしている。</p>
題材終了時の児童の姿（題材のゴールの姿・期待される姿）			
ちいきに伝わる音楽のよさや特徴に気づき、親しみを持つことができる児童。			
題材を通した学習課題（題材の中心的な学習課題）		本題材で働かせる見方・考え方	
自分たちでお囃子を作り、お囃子の魅力を伝えることができる。		音楽に対する感性を働かせ、和楽器の音色、リズムの関わり等を、自己のイメージや感情などと関連付ける。	

2 題材における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）	
<p>A 表現 (2)器楽ア、イ(1)、ウ(1) (3)音楽づくりア(ア)(1)、イ(1)、ウ(1)</p> <p>B 鑑賞 ア、イ</p> <p>〔共通事項〕に示された音楽を形づくっている要素</p> <p>ア 音色、リズム、速度、旋律、拍</p> <p>イ 呼びかけとこたえ</p>	
教材・題材等の価値	
<p>本題材は、鑑賞と音楽づくりの活動を通して、ちいきに古くから伝わるお祭りの音楽や郷土に伝わる音楽に親しみながら、その雰囲気や特徴を感じ取り、よさや面白さを味わったり、音楽づくりの発想を得たりすることができるように学習を進めていく。</p> <p>鑑賞では、祭り囃子を聴き比べ、楽器の音色・リズム等のその地域の音楽の様々な特徴を鑑賞の学習から気づかせ、実際に楽器を演奏してみることで、経験へとつなげることができるだろう。</p> <p>音楽づくりでは、鑑賞から自分なりに感じ取ったことを生かし、旋律づくりを行う。聴く・体験する・自分で旋律をつくる等の様々な学習活動を行う中で、地域に伝わる音楽や楽器への興味・関心への高まりにつながるだろう。</p>	

3 指導に当たったの留意点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

- 「音楽のよさを感じ取り、いきいきと表現できる子どもの育成」
- (仮説) 音楽を形づくっている要素に気づき、それらが生み出すよさや面白さなどを感じ取る活動を位置づければ、自分の思いや願いをもって、生き生きと表現できる子どもが育つであろう。
- 祭り囃子が使用されている祭りの背景を説明し、鑑賞する意欲を持つことができるようにする。
 - 曲を聴いて、どんな感じがしたかを、音楽の要素を使いながら、ワークシートに書かせ、それぞれの感受を大切にする。
 - 振り返りを提出させ、今度の指導に活用する。

4 本時の学習

(1) 目標

日本の楽器の音色や響きの特徴、リズムと曲想との関わりに気づいている。(知①)

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	5分	<p>1 本時の学習内容を確認する。</p> <p>①お祭りの様子を想起させる。 ◇楽しい ◇家族で一緒に行く</p> <p>②祭り囃子について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【学習課題】 祭りばやしの音楽はどんな音楽？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】祭りばやしをきいて、リズムや音色のとくちょうをまとめることができ</p> </div>	<p>○お祭りの様子を写真で見せ、お祭りの様子を想起しやすくする。</p> <p>○飯野小校区の、砥川神社の獅子舞の写真を出すことで身近にもお祭りがあることを知り、祭りの音楽は、身近なものだと感じるように促す。</p> <p>○教科書の説明を読み、祭り囃子について知る。</p>
展開	30分	<p>2 祭り囃子について知り、2つのお囃子を比較鑑賞する。</p> <p>①「祇園囃子」「ねぶた囃子」で使用されている楽器を知る。</p> <p>②「祇園囃子」「ねぶた囃子」を比較鑑賞し、気づきをワークシートに記入する。 ◇ゆっくりしたリズムで少しこわい感じ ◇かねの音が聞こえる ◇はずむようなリズムで踊りたくなる ◇太鼓の音がとても大きく聞こえる</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【期待される学びの姿】 祭り囃子のリズムや音色に親しみをもっている姿。</p> </div>	<p>○どちらにも「太鼓」「ふえ」「かね」が使われていることを絵を使用して、知るように促す。</p> <p>○祇園祭とねぶた祭りの背景を説明する。</p> <p>○「祭り囃子全体」「太鼓」「ふえ」「かね」の4つに分けて、比較鑑賞を行う。</p> <p>○「祭り囃子全体」は、CDの音源で鑑賞し、どのような雰囲気かを、音楽を聴いて、想像するように促す。</p> <p>○DVDを見て、音や楽器の使い方を知るように促す。</p> <p>○ペアワーク・全体共有の前にセルフトークを入れ、自分の意見を整理する時間を設ける。</p> <p>○子どもたちの意見を黒板に整理する。</p> <p>○使用している楽器は同じだが、音色やリズムが異なることで、曲想が異なることに気づくように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【具体的評価規準】知① ○日本の楽器の音色や響きの特徴、リズムと曲想との関わりに気付いている。 (方法：ワークシートの記述・発言)</p> </div>
終末	10分	<p>3 本時をふりかえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめ】 祭りばやしには、リズムや音色など、とくちょうのある音楽がある。</p> </div> <p>◇もっと祭りばやしの音楽をきいてみたい。 ◇太こをたたいてみたい。</p>	<p>○本時の問いに戻り、学習をふりかえる。</p> <p>○児童の発言等からまとめる。</p> <p>○振り返りの視点「わがやはすてき」を示し、本時の学習のふりかえりを行う。</p> <p>○ワークシートに記入するように促す。</p> <p>○セルフトーク後、ペア・全体共有を行う。</p>